

平成19年度 麻生区協働推進事業評価一覧表

No.	新規・継続	事業名	当初予算額(円)	決算額(円)	所管課	事業目的及び内容	事業報告	実施主体・委託先	総合評価	今後の方向性
-----	-------	-----	----------	--------	-----	----------	------	----------	------	--------

1 芸術のまちを目指して

1	継続	麻生音楽祭2007	3,320,000	3,272,744	地域振興課	6～7月に音楽グループによるコンサートやつどいを開催し、発表の機会を提供するとともに、区民や音楽家の交流（ネットワークづくり）と芸術文化の向上を図る。	2千人強の参加者及び5千人強の来場者があり、合計7千人を超える人が参加する「音楽の街・あさお」を代表するイベントとなっている。	麻生音楽祭実行委員会	芸術文化のまちづくりの核となる事業として、地域に根ざした活動をしており、麻生区の魅力を内外に発信することができる事業である。	区民主体の運営体制が軌道に乗り、滞りなく事業を遂行することができた。次年度以降は事業を実施しながら課題を検討し、改善につなげていく。
2	継続	あさおランチタイムコンサート	1,568,000	1,075,007	地域振興課	区民が気軽に音楽を楽しむことができる機会を設けることで、区のイメージアップを図るとともに、音楽家・音楽愛好家のネットワークづくりを促進する。奇数月第4日曜日に区役所2階ロビーで開催。休日に区役所以外でも年2回開催。他、夕方にトワイライトミュージック、年末にランチタイムコンサートスペシャルを開催。	一回につき200人強の来場者があるほか、移送サービスを利用して毎回来場する高齢者もあり、区民に期待されるコンサートとなっている。応募・出演したことのある音楽家・音楽愛好家のネットワークづくりにも取り組み、自主的な拡充を図っている。	あさおランチタイムコンサート実行委員会	ランチタイムコンサート以外にも区役所外で行うネットワークコンサート、夕方の時間に開催するトワイライトミュージックなども取り組んでおり、様々な形式により、いつでもどこでも誰でも音楽を楽しめる機会の提供に努めている。周辺に音楽関連施設が増加してきたことから、区役所を拠点とした形式から転換を図りつつ、事業を拡充していく必要がある。	出演者の協力も得ながら取り組んでいるが、現状のスタッフ体制では手一杯の状況にある。新スタッフや地域ボランティアの拡充に努め、内容を精査していく必要がある。また、音楽家・音楽愛好家相互の情報交換等を図り、より良いコンサートづくりに努める。
3	継続	えいぶるコンサートinあさお	600,000	573,230	地域振興課	幅広い世代を対象に、障害のある人にも気がねなく音楽を楽しむ機会を提供することにより、「音楽の街あさお」の一層の推進を図る。また、障害の有無にかかわらず、誰もが参加できるコンサートとし、区民の交流を図る。	障害者等が約300人参加し、過去3年間の実績を踏まえ、地域ボランティア等を中心に地域に根付いたコンサートになるよう取り組んだ。	えいぶるコンサート実行委員会	ノーマライゼーションの観点から健常者だけでなく障害のある人も良質な音楽を楽しむことができ、誰もが参加できる機会を提供することは必要である。今後は地域とのつながりを強化し、音楽の街あさおとして根付いたコンサートとしていく。	今後にも必要な改善に取り組んでいく。地域とのつながりを増やし、障害者関係分野だけでなく、地域に開かれたコンサートとなるよう、実行委員会・スタッフ体制の充実を検討していく。
4	継続	第13回KAWASAKILんゆり映画祭野外上映会	900,000	900,000	地域振興課	しんゆり映画祭の周知と芸術のまちづくりの推進を図るため、その一環事業である野外上映会の支援を行う。	しんゆり映画祭前の事業であるため、効果的な広報の手段を検討する必要があるが、毎年家族での参加が多く、充実している事業となっている。	KAWASAKILんゆり映画祭実行委員会	「しんゆり・芸術のまち」にふさわしい事業であり、区の魅力を内外に発信する事業として効果的だといえる。	過去数回上映した映画は、親子が楽しむ映画として娯楽性にかける部分がある。上映映画を検討する段階から実行委員会と連携を図り選定することで、事業の魅力向上に努めることが望ましい。
5	継続	麻生区中学校合同音楽会—かなでようあさおの響き—	748,000	748,000	地域振興課	「音楽のまち・かわさき」事業に合わせ「音楽の街・あさお」のまちづくりを進める。区内市立中学校8校生徒の音楽活動の成果を発表し、PTAや地域の方々と共に音楽を楽しむ場とする。また、合同演奏や音楽会運営を通し、各校生徒の連携と交流を深める。	生徒の音楽活動の成果を発表し、PTAや地域の方々と共に音楽を楽しむ場が提供できた。合同演奏や音楽会運営を通し、各学校の生徒の連携と交流を深めることができた。	かなでようあさおの響き実行委員会	各中学校の生徒による音楽活動の集大成として、PTAや地域の方々へ披露しながらとともに音楽を楽しむ場として有意義な事業ではあるが、麻生音楽祭事業との関係を検討する必要がある。	既存の麻生音楽祭事業のスクールコンサート部門との関係を整理し事業の方向性を検討していく。

2 手をつなぐまちを目指して

6	継続	麻生区まちづくり推進事業	4,800,000	4,304,808	地域振興課	市民自治のまちづくりを推進する。そのために、支援機能としての「市民活動を支える環境の整備」や、「活動を生み育てる機能」として活動を立ち上げ、軌道に乗った段階で独立させる活動に取り組む。また、それに関する支援を同事業のサポート事業としてコンサルタントを活用していく。	昨年度からの継続企画に新規1企画を加えて具体的な活動を進めた。その中で、市民活動支援相談窓口に関する企画については、あさお市民活動サポートセンターに業務を引き継いだ。また、第3期市民の会のあり方を検討した。	麻生まちづくり市民の会(株)社会空間研究所	今年度は具体的な企画活動を行った。また、平成21年度開始予定の第3期市民の会のあり方の検討を平成20年1月から始め、3月に中間報告としてまとめた。今後、具体的な検討を行っていくベース作りができたことは評価できる。	第3期市民の会は、「具体的な活動テーマを決め、その活動を行うプロジェクトごとに会員を募集する」というこれまでと違った組織体制とする予定である。今後はこの方針に基づき、各活動を検討し、見直しを行っていく必要がある。
7	継続	多文化共生のまちづくり事業	947,000	646,786	地域振興課	外国人市民が積極的、主体的に地域のまちづくりに参加できるようにし、その意見を区政に反映できる活動を支援する。その活動を通して、国籍や民族等の違いを認め合い、尊重しあうことのできる多様で豊かな地域社会（多文化共生社会）を目指す。	市民パートナーシップ事業の取組により、事業同士の連携を図り、多くの外国人を支援するネットワーク作りができた。外国人に医療情報を提供する電話相談窓口を開設することができた。	麻生国際市民ひろは、酒井真理子、中学・高校生の日本語支援を考える会	それぞれの事業に一定の成果は得られたものの、区が多文化共生社会への広がりや外国人市民が積極的、主体的に地域のまちづくりに参加していく仕組みづくりについては今後の課題である。	市民パートナーシップ事業の効果を見極めつつ今後の展開を検討する。区民課との連携により既存の外国人市民情報コーナーの活用促進を検討し、効果的な情報提供手法を模索する。
8	継続	麻生区世代交流事業	800,000	800,000	地域振興課	高齢者が地域活動に積極的に参加できる場の提供を目的とした「麻生ハートフルエイジファッションショー」及び若い世代の社会参加を促す「ヤングプリリアントファッションショー」をそれぞれ実施することで、世代間の交流を深め、より豊かな麻生のまちづくりを目指す。	ハートフルエイジファッションショー・・・これまで参加が少なかった男性モデルの参加方法を工夫した結果、多くの参加が得られた。ヤングプリリアントファッションショー・・・麻生ハートフルフェスタと名称を変更し、幅広い年齢層の参加を得たことで、高齢者同士や世代を超えた交流が多く行われた。	麻生ハートフルフレンズ	総合的に見て、斬新な企画やアイデアによって高齢者がおしゃれをすることや違った世代との交流を深めた結果、明るく前向きになった、友人ができた等の喜びの声が挙がった。	区と協働で行った3年間の事業展開によって、当初の目標は概ね達成できたため、今年度をもって事業を終了する。
9	継続	あさおスポーツフェスティバル	800,000	785,244	地域振興課	地域で区民が自主的に運営するスポーツ大会を支援すると共に、区民の健康と体力の向上、活力と躍進あるまちづくりを目指す。	地域に根付いたスポーツフェスティバルとして評価されており、地域でのスポーツの場作り、交流の場として効果をあげている。	あさおスポーツフェスティバル実行委員会	小学生から高齢者の大会と、幅広い年齢層のスポーツ大会を支援しており、多くの区民の参加を得ている。	個々の大会の実情に合わせた支援を実施し、より多くの区民の参加が得られるように工夫していく。
10	継続	第18回あさお福祉まつり	2,900,000	2,900,000	地域保健福祉課	区内で地域福祉活動に携わる当事者・ボランティア・施設などの活動をひろく区民に知らせるとともに、体験学習などを通じてより具体的に福祉についての理解と関心を深める。	多数の区民が参加し、福祉に触れる場としての機能を果たしている。福祉関係団体、グループ等の参加は年々増加し、福祉関係団体の貴重な交流の場ともなっている。	麻生区社会福祉協議会	福祉制度や環境の変化、「地域のことば地域で」という流れの中で、区民と地域福祉を結びつける貴重な場、機会となっている。	より多くの団体に参加してもらうため、事業実施スペースを拡張する。また福祉に関心を持つ学生など、より多くの年代に対し働きかけを行い福祉のまちづくりを推進する象徴的なイベントになるようにしていきたい。
11	継続	親子ハーモニーランドinあさお	313,000	290,507	保健福祉サービス課	子育てに関する事業の企画、運営、情報提供を区民と保健福祉センター、市民館、地域子育て支援センター、保育園等が協働で行う。①交流会・学習会の企画、運営②子育て情報誌「ハーモニーランド通信」③定例会の実施	子育てやその支援のための交流会や学習会を企画し、多数の参加があった。また子育て情報ペーパーの配布も行い、目標は達成できた。	親子ハーモニーランド企画委員会	子育て中の区民やその支援に関心の深い区民が、行政と協働し、活動を行う場として貴重である。より多くの区民のニーズをタイムリーに把握し、適確に対応するための検討を行っていく必要がある。	区内に新しい子育て支援の場や機会が増えており、また制度の変更も多くなったため、常に最新の情報を発信していく必要がある。
12	継続	麻生区子育て支援・企画事業	4,845,000	1,557,666	子ども総合支援担当					
12-1	継続	麻生区子ども関連ネットワーク会議		9,975	子ども総合支援担当	麻生区における子ども関連団体、グループや関係機関の連携を図るとともに、子育てや子どもへの育成を地域全体で支援するため、情報交換やネットワーク化に向けての協議等を行う。	各機関、団体からの現状や課題が出され、共有できた。その中で、子どもたちが地域の中で人とのかわりを持ちながら安全に遊べるために、作業部会を設置し、学童期の遊び、学びのためのマップを作成した。	—	ネットワークを構築していくためには、現状や課題の共有と今後に向けての方向性を示し、活動を実施していくことが必要である。「学童期の学び、遊びのためのマップ作成」を通して、ネットワークが強化し、地域に発信できる活動が行えた。	地域の課題を委員を通して把握し、具体的に活動できる基盤はできた。「学童期の学び、遊びのためのマップ」については、今後も引き続き協議し、地域に発信できるものを作成していく。
12-2	新規	小学生向けのリーフレット作成事業		795,375	子ども総合支援担当	学童期の子どもたちが安心して遊び、学べるように地域の情報を提供する。また、リーフレットを活用し、地域で楽しく生活できるようにする。	リーフレット「みんなのちず」が完成した。7中学校区のエリアで作成し、16小学校の児童に配布した。	—	子どもたちにアンケートを行い、遊びについてや地域との関わりを知ることができた。「みんなのちず」は自分でオリジナルの地図を作成するものであるため、子供同士、家族とのコミュニケーションを深め、地域を知ることにもつながるといえる。	作業部会を継続し、子どもたちの活用状況の検証を行い、さらに使いやすいもの、教育の中でも活用できるものにしていく必要がある。
12-3	継続	子ども情報コーナー維持管理事業		85,485	子ども総合支援担当	区内の子育てに関する情報をまとめて区民に提供する。また子育てサークル等の区民の自主活動の情報も併せて提供する。	ライフステージ別の情報提供の仕方を工夫した。ちらしは好評で、持ち帰る方は多い。学童期の方に対しては、子ども文化センター日より、行政機関の情報、民間事業所等の子育て支援についても広くPRした。	—	子育て情報の一元化は区民サービスとしても有効である。また、定期的な情報の更新のみで特別な予算を必要としない効率性の高い事業であるといえる。	情報の提供は行政で把握しているグループや機関と限定してきたが、今後は幅広く情報収集するために、提供する情報を選ぶ基準を内部で作成しておく必要がある。
12-4	継続	子育て人材バンク事業		648,660	子ども総合支援担当	区内にいる子育て支援に関する資格や特技を持つ人材を活用し、区内の子育て支援グループ等の支援を行い、地域の子育てを地域全体で支援する。	ボランティア16人、子育てグループ23団体の登録があり、69回、延べ107人の派遣を行った。ボランティア登録時に委託先とともに面談をすることで、利用者のニーズにあった派遣ができた。	特定非営利活動法人川崎児童健全育成会コッコロ	ボランティア登録をする人の子育て支援に対する熱意、利用者の活動の充実に向けてのニーズが把握でき、充実した地域の子育て支援となった。ボランティアおよび利用団体のニーズを、委託先と検討していく必要がある。	委託先との調整を十分に行い、子育て支援の強化につなげていきたい。
12-5	継続	子ども総合支援担当事業費		18,171	子ども総合支援担当	子育てに関する情報を提供するために必要な事務用品、切手等を購入する。	事業運営に際し、円滑な事務を推進することができた。	—		情報提供や事業を運営するために用いる事務用品費は必要である。
13	継続	子ども関連大学連携事業	1,048,000	470,480	子ども総合支援担当					
13-1	継続	麻生区マタニティコンサート事業		270,480	子ども総合支援担当	出産を控えた妊婦のリラクゼーションを図ることを目的として、昭和音楽大学卒業生を中心とした演奏家のコンサート及び保健福祉センターの助産師の妊娠中の生活のワンポイントアドバイスを行い、妊娠中からの子育て支援の一環とする。	7月は62人、12月は53人の参加があった。プロの演奏、読み聞かせボランティアの話や手遊びによって、リラックスできた、胎児が良く動いた、と反応が良かった。出産後の子育てのイメージにつなげ、地域資源を活用できるようPRもできた。	—	妊娠中や子育て中は気軽に参加できるコンサートが身近にないため、好評だった。また、コンサートだけでなく、地域の子育て支援のPRができ効果的だった。	音楽を通しての子育て支援は継続していきたい。妊娠中だけでなく、出産後も親子で参加できるコンサートを企画していきたい。

No.	新規・継続	事業名	当初予算額(円)	決算額(円)	所管課	事業目的及び内容	事業報告	実施主体・委託先	総合評価	今後の方向性
13-2	継続	小学校・昭和音楽大学交流コンサート事業	200,000		こども総合支援担当	大学連携事業の活動のひとつとして、昭和音楽大学の大学院生が区内の小中学校に向き、小学校でコンサートを行ったり、小学生に歌や楽器の指導を行うことで、小学生に良質な音楽に触れる機会を提供し、さらに小学生と大学院生の音楽による交流を通じて、地域社会づくりに貢献する。	生の演奏や歌を聞くこと、さらに大学生と児童とがふれあうことは、お互いに教育的効果があった。また、麻生区が芸術のまちとして地域づくりを展開させていくことの周知にもなった。	—	麻生区の地域の子どもの健全育成のために、良質な音楽に触れることは有効だった。	平成18年度から実施している事業だが、来年度残りの7校を実施すると全校が終了する。昭和音楽大学も20年度より学生の単位取得として位置づけしており、地域に根ざした事業に発展すると考えられる。
14	継続	区政・地域情報提供事業	3,060,000	1,453,200	総務企画課	麻生区の地域情報等を広く区民に提供するため、人口・教育・子育てなどの様々な視点から捉えた統計をまとめた「あさお統計白書」を作成し、その周知を行う。		—		
14-1	継続	平成19年度麻生区役所ホームページ更新事業	203,700		総務企画課	麻生区ホームページの更新作業に当たり、市民にとって分かりやすいホームページとなるよう専門的技術を有する事業者から、技術的助言を受け、また、コンテンツの作成を委託する。		(有)MONTEROZZA	ホームページの更新作業については、区民ニーズの多様化から様々なコンテンツを作成する必要があり、技術的に専門的知識を有する者の協力が不可欠であることから妥当な事業である。	掲載情報を充実させ、高齢者、障害者等にも配慮したページを作成していることから、区民ニーズを満たしていると思われる、今後も継続していく。
14-2	新規	麻生区役所ホームページ運用研修	199,500		総務企画課	麻生区ホームページの更新作業に当たり、区職員のホームページ作成能力の向上を図るための研修を実施する。	区職員に対してホームページ作成研修を3回行い、区職員のホームページ作成能力の向上を図った。	富士通オフィス機器(株)神奈川支店横浜営業所	所管課の職員の能力向上により、所管課で直接更新作業を行えることから、更新作業が早く行うことができ、区ホームページを有している以上、必要な事業であると考ええる。	所管課の職員は本来業務を抱えている中で、OJTによる研修が困難であることや、ホームページの利用が今後益々増えることが予想されることから、どの所管課であっても、能力の向上を図ることが必要であり、今後も継続する。
14-3	継続	麻生区統計白書作成業務	1,050,000		総務企画課	麻生区を知ってもらうため、転入者を中心とする区民に麻生の特性を示す統計データ等の情報提供を行う。区の様々な分野に関する各種統計データを収集し、グラフやイラスト等により分かりやすく表現した冊子を作成し、区民課窓口等での配布、区ホームページへの掲載を行う。	市政だより麻生区版に掲載したこともあり、配布開始直後から前年を上回る数の問合せがあり、冊子を持っていく人の数も例年に比べ多かった。また、地域学習の一助になればと考え、区内の小中学校への配布を行った。	(株)ばど	イラストを多用し、親しみやすい冊子を作成できた。過去の決算額に比べてかなり抑えた額で契約できた点は大きな成果だった。しかし、内容的な部分で過去を踏襲することが多かったため、今後は新たな視点から麻生区を捉えるようなデータの収集や分析業務が必要であると考ええる。	当該冊子は区民にかなり活用されてきており、麻生区の特性を周知することの成果はあげている。今後は記載内容の見直しや分かりやすさ等の改善をし、業務は継続していく。
15	継続	麻生区広報発信事業	3,170,000	3,165,505	総務企画課	麻生区の行政情報を区民に周知するに当たり、タウン紙等を活用することにより、広報の充実を図る。	市政だよりに掲載していた健診案内等についてタウン紙にも掲載したことにより、従来よりも区民の申込が増加した。タウン紙の活用により行政情報の区民への浸透度が高まったといえる。	マイタウンタウンニュース他	行政の広報力を補完するため、民間企業を活用した結果、一定の効果を挙げているといえる。ただし、掲載する情報との費用対効果を測定することは非常に困難であるため、掲載する情報の精査が必要である。	従来よりも行政情報が区民に浸透した成果は認められる。今後は、本来「市政だより区版」などで掲載すべき行政の政策に関する情報などと、イベント開催などのお知らせ情報を区別し、それに応じて媒体を活用していくことが望ましい。
16	新規	麻生区広報広聴推進事業	1,224,000	988,019	総務企画課	より区にふさわしい広報を行うために、広報広聴の評価を必要とするに当たり、区役所では広報評価の手法が確立されていないことから、広報に関して専門的知識を有する者に、広報評価の手法を確立するための調査・検討を委託する。	専門的知識を有するものと検討を行い、一定の報告書を作成することができたため、当初の目的は達成したものと考える。	(社)日本広報協会	広報の重要性にかんがみ、従来よりもさらに区民ニーズに沿ったものにしていくため、広報の評価を行うことは不可欠と考える。そこで、従来、広報の視点からの評価をはっきり確立していくことがなかったため、意義のある事業であったと考える。	今回作成した報告書を基に、麻生区役所に合致した広報評価の手法を検討・確立していく。
17	新規	麻生区安全・安心まちづくり事業	844,000	1,274,727	地域振興課	区民、地域団体、事業者、行政機関等が連携し、区民が安全で安心して暮らせるまちづくりを進めることを目的とし、①地域安全パトロール②安全・安心まちづくり週間の実施③地域安全パトロール実施団体相互の意見交換会④交通安全推進に向けた啓発用CD作成及び配布、を行う。	地域安全パトロール実施組織に対し、パトロール用品(ベスト、腕章、帽子)を貸与した。組織によるパトロールは年々増加しており、区民防犯意識の高揚に成果をあげている。	麻生区安全・安心まちづくり協議会	行政単独ではカバーしきれない地域活動の実施、活性化を推進するにあたり、協議会の役割がさらに重要になってくる。また、多様化する犯罪に対しては緊急対応が可能な組織体系が構築されていることから、事業に対する成果は得られているとともに、今後も支援していくことが必要である。	現在、行政内においても防犯関係業務を行っている部署が複数あり、連携が取れているとは言い切れない現状にある。また、犯罪予防に当たっては情報の共有化、地域住民意識の向上が必要であることから、今後は集約化、共有化、地域との連携を主に活動展開していく。
18	新規	麻生区市民活動支援施設市民活動支援事業	1,102,000	1,056,170	地域振興課	麻生区市民活動支援施設「麻生市民交流館やまゆり」において、市民活動支援相談窓口に関する業務を行う。区民の手によるまちづくり活動を推進することを目的に、印刷機、その他必要周辺機器を整備する。	印刷機は高い稼働率となった。また、初めての試みである相談窓口は徐々に定着しているが相談者が増えており、来年度にはかわさき市民活動センターと連携することも決定した。初年度としては概ね目標を達成できたといえる。	社団あさお市民活動サポートセンター	印刷機器の整備・市民活動支援相談窓口業務ともに事業全体としての成果は評価できる。	来館者が利用できるパソコン2台と館内の無線LAN環境を整備する。また、引き続き市民活動支援相談窓口の運営を行うことに加え、情報提供、市民活動団体のネットワーク構築など市民活動支援全般に関わる業務を行う。
19	新規	麻生区市民活動支援施設設立記念事業	1,100,000	1,032,265	地域振興課	麻生区市民活動支援施設「麻生市民交流館やまゆり」をより多くの区民に知ってもらう機会とするため、開設に当たり、開設式典、開設記念コンサートを及び区民参加のオープニングイベントを開催する。また、麻生区をテーマとした市民活動に関する講座を開催する。	オープニングイベント及び講座は盛況で、多くの参加者があった。当初の目的を達成できたといえる。	社団あさお市民活動サポートセンター	事業の結果、区民に当該施設を広く周知できたことは評価できる。	当事業は、麻生区市民活動支援施設の開設時における事業として設定したもので、今年度限りで事業を終了とする。
20	新規	犬ねこ適正飼養推進啓発事業	264,000	261,375	衛生課	犬やねこの適正飼養方法を広報し、区民の理解と協力を得て、人も動物も安心して暮らせる麻生区を目指す。苦情内容に合わせた適正飼養啓発パネルの作成・配布と、動物愛護フェアかわさき2007の来場者に対する啓発用糞処理袋とリーフレットの配布を行う。	パネルの作成や、糞処理袋の配布を行い、適正飼養について多くの区民の理解を得ることができた。	—	協力者の発掘及び動物愛護フェアかわさき2007における適正飼養の普及啓発という当初の目的は達成した。	この事業は終了するが、今後、動物愛護全般に視野を広げ、内容を検討した上で再提案を予定である。
21	新規	家族みんなで朝ご飯ばくばく野菜推進事業	642,000	642,000	地域保健福祉課	市の食生活改善推進員とともに、区内の幼稚園に児童を通園させている保護者を対象に、講習会を実施するなどし、朝ご飯に野菜を食べるように心がけることへの理解を増やす。①区内幼稚園における出前講習会の企画・運営②朝食野菜料理献立等健康づくり推進パンフレットの企画・作成	冊子の作成にあたり、生産農家に地産地消について話を聞き、野菜を簡単においしく取ることのできるメニューを選び好評を得ることができた。	川崎市食生活改善推進員連絡協議会	朝の忙しい時間の中で、野菜をたくさん使った料理を作ることは、子育て世代の人たちにとっては大変なことと推測される。しかし、出来ないからあきらめるのではなく、食べさせてあげたいと思う親心が伝わってきた。	区内7幼稚園中、6園での講習会を開催し、継続的にアプローチする必要性を実感している。一般の子育て世代の区民に対しても、あさお福祉まつり等で小冊子を配布しながら、普及啓発や料理教室を開催していく。
22	新規	地域福祉に係るアンケート調査等実施事業	720,000	898,800	地域保健福祉課	平成18年12月から平成19年7月まで片平地域訓練室、柿生連絡所を中心とする片平・柿生地区ふれあい交流サロンを実施した。関係者を対象に、アンケート調査を実施、分析し、小地域のつながりに関する区民ニーズを把握する。	回収率は低かったものの、ややふれあい交流サロンの客観的評価を行うことができた。また、関係者からはモデル事業が有意義である旨の意見が多く寄せられた。	(株)社会空間研究所	平成18・19年に実施したふれあい交流サロンの成果を検証し、今後予定している「小地域のつながりネット支援事業」の足がかりとなり有効だった。	地域福祉の推進を図るために、小地域のつながりに関する取組み事例は重要である。ふれあい交流サロンを検証し、成果を20年度からスタートする第2期あさお福祉計画における地域ネットワークづくりに反映していく。

### 3 緑とふるさとのまちを目指して

23	継続	体験農業 一親子で米づくり	1,000,000	945,654	地域振興課	米づくりの作業を通して親子の絆を深めるとともに、食の大切さ、農業の尊さを実感し、麻生区の地域特性である都市と農業の共生について考える機会を提供する。	参加者が募集定員を大きく上回った。参加者・実行委員・農業指導者の連携はうまくできていた。	体験農業実行委員会	地域特性を活かした麻生区ならではの事業であり、農業や麻生区を理解する上でも大きな成果をもたらしている。今後も麻生区の魅力を発信するたために主軸となる事業である。	さらに事業効果を高めた体制作りを進める一方で、事業そのものが田んぼ近隣の開発事業に大きく影響を受けることが予想される。開発の展開を踏まえて今後の事業については検討する。
24	継続	麻生里地・里山保全推進事業	715,000	715,000	生涯学習支援課	麻生区に残る里地・里山の魅力を未来に継承するため、里地・里山カフェ塾、里山フォーラム、活動団体・グループ交流連絡会の開催やネットワーク通信等の発行等の事業を実施する。	麻生区を中心とした里山の身近な自然や歴史について、様々な手法を用いて、理解をすすめることにより、幅広い市民の里地・里山保全に対する関心を引き起こし、里山フォーラム参加団体はもとより地域で活動している子どもや大人にまでよい影響を与えている。	里山フォーラムin麻生世話人会	麻生区内の自然環境保全についての活動団体・個人が集まる機会を提供しており、地域の里地・里山保全推進に向けての活動交流が促進され、有効な中間支援組織体となっている。	地域の里地・里山保全推進に向けて、様々な手法によって、広く一般の関心を喚起し、環境問題に関する意識を高めてきた。今後も現状と課題を分析しながら、身近な緑の保全について考えられるような事業を進める。
25	継続	ふるさとあさお再発見	300,000	748,000	地域振興課	区民から愛され、親しまれる「ふるさと」づくりを目指し、地域に伝わる財産を風化させず後世に継承していく。区民とともに、食育文化を通じて麻生区に伝わる文化を再現し「ふるさとあさお」を提供する。	伝統・伝承文化などを区民に広く紹介し、麻生区に伝わる文化を再現し、「ふるさとあさお」を提供できた。	麻生区文化協会	伝統・伝承文化などを区民に広く紹介することは、これらの地域に伝わる財産を風化させず、後世に継承していくという観点から継続的な事業展開が必要である。	地域に伝わる財産を風化させず、後世に継承していくという観点から継続的な事業展開が必要である。
26	継続	あさお観光資源の発掘調査研究事業	2,973,000	2,970,113	地域振興課	区内の観光資源を発掘し、麻生の魅力を育て広く情報発信するため、編集企画・立案を含め調査研究を3年にわたり実施。本年度は最終年として麻生ガイドブック「麻生の魅力」を20,000部発行し、転入者を中心に無償配布する。	事業最終年として、ブックを完成させたので事業として達成された。	麻生観光協会	新総合計画の施策計画、「新たな観光振興」を目指す中、この調査・研究は、区内の観光資源をまとめた貴重な資料となる。また、観光協会の強化育成の観点からも有意義な事業であり、事業目的に対する成果が得られている。	本事業はブック作成をもって終了したが、20年度からは3年間で蓄えた情報等及び、ガイドブックを活用した事業を検討・実施する。
27	継続	麻生区自然エネルギー活用促進事業	583,000	554,683	地域振興課	区役所屋上等に設置された、太陽光発電設備を活用し、イベント、講演会等を開催するなど自然エネルギーの活用、環境問題の啓発活動を実施する。	イベント、講演会等多くの区民の参加を得られており、大きな成果があげられている。	麻生区自然エネルギー活用促進実行委員会	区民主体の実行委員会として、積極的な活動展開があり適正に事業実施できた。	区民主体での啓発活動をより活性化し、出前講座や講演会、イベントを行っていく。また、環境局や関係機関との連携を進めるとともにCCJ川崎エコ戦略について同実行委員会が中心となり、市民主体で進めるうえでの方向性の検討を進めていく。
28	継続	あさおガイドマップ増刷改訂事業	1,260,000	756,000	地域振興課	「麻生区ガイドマップ」の掲載情報を、最新情報に改訂し、人口増を考慮して増刷する。転入してきた区民を中心に、区役所窓口等で無料配布する。	増刷した15,000部は、1年間でほぼ在庫が無くなる状態であり、適正な部数が発行できている。区民からの声は好評である。	(株)ゼンリン	区民にとって役立つ情報を提供できている。	区民からの声は好評であり、次年度以降も同様に発行する。
29	新規	ウォーキングマップ活用健康づくり推進事業	1,886,000	1,774,046	地域保健福祉課	歩行習慣のない区民を対象に、より身近な地域でウォーキングが開始できるよう支援し、広くウォーキングの普及を図ることで、生活習慣病の予防及び介護予防を図る。	体験ウォークでは、毎回参加者が8割を超え、初参加も4割以上あり多くの人にアプローチできた。また、公園の定例ウォーキングでは、半数近くに身体面の向上があり、ウォーキングの習慣化、閉じこもり予防にもつながった。ウォーキングマップも大変好評を得ている等達成度が高い。	麻生区ウォーキング推進実行委員会	ほぼ計画通りに事業を展開することができた。	今後も区民の健康づくりのためのウォーキングを普及するために、何が必要かを大きく捉え、今までの活動を検証し、ボランティアの育成やウォーキングマップを活用したウォーキング教室の開催等、新たな取り組みに向けて、区民とともに、さらに事業を展開していきたい。

No.	新規・継続	事業名	当初予算額(円)	決算額(円)	所管課	事業目的及び内容	事業報告	実施主体・委託先	総合評価	今後の方向性
30	新規	新百合ヶ丘駅南口広場水景施設維持補修工事	1,565,000	1,563,450	建設センター管理課	建築より20年以上が経過している新百合ヶ丘南口駅前デッキを、麻生区の玄関として相応しいよう、補修及び清掃を実施する。	緑と調和した「ふるさとあさお」にふさわしい新百合ヶ丘南口駅前広場の美化推進に貢献し、事業目的に対する成果は得られた。	東聖建設株式会社	水景施設内のモニュメント補修には専門的技術が必要であり、委託業者による施設の補修及び清掃は事業目的の達成に適している。	今年度で終了する。

#### 4 親しまれる区役所を目指して

31	継続	区役所窓口及び窓口まわり改善事業	1,154,000	748,020	区民課	例年3月から5月にかけて区民課窓口が大変混雑するため、この混雑解消と区民サービス向上のための届書、申請書の記載方法や受付窓口を案内する「窓口案内係」を配置する。	窓口案内係を配置したことにより、来庁者を長時間待たせることなく手続きをスムーズに済ませることができ、混雑解消に効果があった。	—	市民に対する公的サービス向上は、あらゆる事業に求められている。このことから、窓口の混雑解消と市民サービスの向上、イメージアップのため、必要な事業であり、その目的は果たされている。	麻生区は、マンション、住宅の建設が進んでいる。したがって、住民異動が今後とも多くなることが予想される。3月から5月にかけて窓口混雑は今後も続くことが予想されることから、混雑解消、イメージアップ等のため、この事業は継続する必要がある。
----	----	------------------	-----------	---------	-----	--	--	---	---	--

#### 5 区民発意や地域課題に即応できる区を目指して

32	継続	緊急・地域課題対応事業	6,856,000	3,850,225						
32-1	継続	新百合ヶ丘駅周辺地区情報環境整備事業		1,344,000	総務企画課	新百合ヶ丘を訪れる誰もが、必要な駅周辺地区の情報を迅速かつ正確に得られるよう誘導案内板を設置することにより、区民・来街者等に対する利便性の一層の向上を図る。	アートセンターの開館までに、誘導案内板の設置工事を完了することができ、当初目的は達成できたと考える。	—	アートセンター開館までに誘導案内板を設置することで、区民・来街者へ駅周辺情報を提供し、目的地への迅速・的確な誘導案内をすることによって、一定の効果があったと考える。	「しんゆり芸術のまち」推進事業により、平成20～22年度にかけて、新百合ヶ丘周辺地区における誘導案内板設置等の情報環境整備を図る予定である。
32-2	新規	路上喫煙防止ステッカー作成事業		136,500	地域振興課	区民から要望のある路上喫煙防止・ポイ捨て禁止を徹底することを目的とし、まちの景観を損なうことのないよう考慮したうえで、路上喫煙禁止・ポイ捨て禁止ステッカーを1,000枚作成する。	重点区域内を中心にステッカーを貼り付けることで、住民・通行人に対し周知・啓発を促すことができている。	(株)マイタウンにじゅういち	路上喫煙防止を周知・啓発する手段の一つとして効果を上げることができたと考ええる。	啓発効果の検証や配布を中心としたステッカー案の作成など考慮する点はあるが、作成・活用に関しては終了とする。
32-3	新規	新百合ヶ丘駅周辺イルミネーションイベント支援事業		1,000,000	総務企画課	「しんゆり」をさらに魅力ある街とするための取り組みとして企画されたイルミネーションイベントに対し、区が実行委員会と共催することにより、「芸術を通じたまちづくり」や「活力のあるまちづくり」の推進に寄与する。	イルミネーションの点灯期間中、多くのイベントが開催され、行政と民間企業が一体となった「芸術を通じたまちづくり」や「活力のあるまちづくり」の推進に一定の効果があったと考える。	kirara@アートしんゆり2007実行委員会	準備期間が十分でない中、フロンターレ・学生・麻生区在住ミュージシャン等の地域参加・地域主体によるイベントが多く開催され、「芸術を通じたまちづくり」や「活力のあるまちづくり」の推進に一定の効果があったと考える。	平成20年11月～平成21年2月間のイルミネーションイベント開催に向け、実行委員会が組織されている。学生の企画によるイベントや芸術関連イベント等を拡充し、「芸術を通じたまちづくり」や「活力のあるまちづくり」のより一層の推進を図る。
32-4	新規	新百合ヶ丘駅周辺地区情報環境整備事業		997,500	総務企画課	平成20～22年度にかけて、大規模なベデストリアンデッキの改修工事が予定されており、新百合ヶ丘駅周辺にふさわしい統一的で効果的な情報環境整備を図るため、案内板設置に関するマニュアルを作成するための検討会議運営支援をする。	4回の検討会議により、19年度中にマニュアル案を作成することができ、当初目的は達成できたと考える。	(株)社会空間研究所	検討会議の運営、市民意見の集約において、コンサルティングによる支援は一定の効果があったと考える。また、案内板設置マニュアル案の内容に係る検討については、専門的見地からの助言等は効果的であったと考える。	平成20～22年度にかけて、案内板設置マニュアルを基準とした新百合ヶ丘周辺地区における誘導案内板設置等の情報環境整備を図る予定である。
32-5	新規	麻生区市民活動施設情報発信事業		372,225	地域振興課	区内で活動する市民団体の情報や、公的機関による市民活動支援に関する取り組み等を効果的に広報するために、市民活動の拠点施設である「麻生市民交流館やまゆり」にインフォメーションボード等を設置する。	公道に面した施設の正面にインフォメーションボードを、また、正面庇に施設名称が標示された。	—	市民による検討によって、「麻生市民交流館やまゆり」がどういった施設なのか、どのような市民活動が行われているかを、広報できるようになった。	11月30日設置工事完了に伴い、終了した。

#### 6 共通事務費

33	継続	事務費等共通経費	993,000	762,240	総務企画課	協働推進事業実施に伴う、事務用品費等の購入	事業運営に際し、円滑な事務を推進することができた。	—	事務処理を円滑に進める上で、適正である。	協働推進事業の円滑で効率的な実施のため、今後も共通事務費の適正・効果的な執行に努め、更なる区民サービスの向上を図っていく。
----	----	----------	---------	---------	-------	-----------------------	---------------------------	---	----------------------	---

合 計			55,000,000	44,483,964						
-----	--	--	------------	------------	--	--	--	--	--	--